

クォータニオン(四元数, Quaternion)とは, 複素数を拡張した数体系で, 実数部と, 虚数単位 i, j, k の虚数部で表現されます. 虚数単位 i に, j と k が追加されています. 合計4つの次元を持つため, 日本語では四元数とも呼ばれます. 三元数や五元数では数体系として成立せず, 四元数である理由は大変興味深く, 文献(1)に深い考察があります.

本稿ではクォータニオンの数学的な特徴を紹介し, ベクトルとの親和性や, 回転変換との関係性について説明します. 最後に, 角速度センサから姿勢角を計算する技術を紹介します.

なお, 本章では数式を通し番号で記します.

● Python環境設定

クォータニオン演算は, `numpy-quaternion` ライブラリを使います. `pip` コマンドで, インストール可能です.

```
pip install numpy-quaternion
```

依存ライブラリは, NumPy, SciPy, Numbaで, 別途インストールが必要です. Anacondaと同梱されているため, AnacondaからのPython導入がお勧めです. 類似ライブラリでは`pyquaternion` ライブラリも同等の機能を有しています. 回転変換にだけ特化するならば, SciPyライブラリの`scipy.spatial.transform.Rotation`も使われています.

◆参考文献◆

(1) 矢野 忠: 四元数の発見, 2014年9月, 海鳴社.

5-1 クォータニオンの基本 (1)

● 概要

クォータニオンの基本事項として, クォータニオンの表記の仕方, 虚数単位の取り扱い, 結合則など演算方法について解説します.

● 仕組み

クォータニオンは, a, b, c, d をスカラ値とした場合, 次のように表記されます.

$$\tilde{q} = a + bi + cj + dk \dots\dots\dots(1)$$

▶ 虚数単位の演算

次のように定義されます. 虚数の次元を拡張した代償として, 積の交換則は成立しません.

$$i^2 = j^2 = k^2 = ijk = -1 \dots\dots\dots(2)$$

$$ij = k, jk = i, ki = j \dots\dots\dots(3)$$

$$ji = -k, kj = -i, ik = -j \dots\dots\dots(4)$$

この不思議なクォータニオンは3次元の回転変換を記述できる性質を持っています. 飛翔体の姿勢角や,

3D CG計算などで多用されています.

▶ 結合則, 分配則, 交換則

和と積の結合則[式(5), 式(6)], 分配則[式(7), 式(8)], 和の交換則[式(9)]は成立します. 積の交換則[式(10)]だけ成立しません.

$$\tilde{q}_1 + (\tilde{q}_2 + \tilde{q}_3) = (\tilde{q}_1 + \tilde{q}_2) + \tilde{q}_3 \dots\dots\dots(5)$$

$$\tilde{q}_1(\tilde{q}_2\tilde{q}_3) = (\tilde{q}_1\tilde{q}_2)\tilde{q}_3 \dots\dots\dots(6)$$

$$\tilde{q}_1(\tilde{q}_2 + \tilde{q}_3) = \tilde{q}_1\tilde{q}_2 + \tilde{q}_1\tilde{q}_3 \dots\dots\dots(7)$$

$$(\tilde{q}_1 + \tilde{q}_2)\tilde{q}_3 = \tilde{q}_1\tilde{q}_3 + \tilde{q}_2\tilde{q}_3 \dots\dots\dots(8)$$

$$\tilde{q}_1 + \tilde{q}_2 = \tilde{q}_2 + \tilde{q}_1 \dots\dots\dots(9)$$

$$\tilde{q}_1\tilde{q}_2 \neq \tilde{q}_2\tilde{q}_1 \dots\dots\dots(10)$$

▶ 和差積

次の2つのクォータニオン \tilde{q}, \tilde{r} を使って表したとき,

$$\tilde{q} = q_w + q_x i + q_y j + q_z k$$

$$\tilde{r} = r_w + r_x i + r_y j + r_z k$$

\tilde{q}, \tilde{r} の和と差を式(11)と式(12)に, 積を式(13)に示します. 積は分配則と式(2), 式(3), 式(4)から導かれます.

$$\tilde{q} + \tilde{r} = (q_w + r_w) + (q_x + r_x)i + (q_y + r_y)j + (q_z + r_z)k \dots\dots(11)$$

$$\tilde{q} - \tilde{r} = (q_w - r_w) + (q_x - r_x)i + (q_y - r_y)j + (q_z - r_z)k \dots\dots(12)$$

$$\begin{aligned} \tilde{q}\tilde{r} = & (q_w r_w - q_x r_x - q_y r_y - q_z r_z) + \\ & (q_w r_x + q_x r_w + q_y r_z - q_z r_y) i + \\ & (q_w r_y - q_x r_z + q_y r_w + q_z r_x) j + \\ & (q_w r_z + q_x r_y - q_y r_x + q_z r_w) k \dots\dots\dots(13) \end{aligned}$$

● コード

クォータニオン演算には, `numpy-quaternion` ライブラリを使います. 式(1)と式(11)~式(13)の基本演

リスト1 クォータニオンの基本演算(その1)

```
import numpy as np
import quaternion

q1 = np.quaternion(1,2,3,4) # 1+2i+3j+4k ...式(1)
q2 = np.quaternion(5,6,7,8) # 5+6i+7j+8k
# .w : 実数部, .x / .y / .z : 虚数部 i / j / k
print("q1 = {}+{}i+{}j+{}k".format(
    q1.w, q1.x, q1.y, q1.z))
print(q1 + q2) # 和 ...式(11)
print(q1 - q2) # 差 ...式(12)
print(q1 * q2) # 積 ...式(13)
# スカラ値と混合した四則演算も可能 (除算は後述)
q3 = q1 * 2.1 + q1 * q2 + 4.2 + 3.6 / q1
```